

死の塔

西域俳句紀行

加藤楸邨

毎日新聞社

死の塔

定価 二二〇〇円

西域俳句紀行

著者 ©加藤楸邨

昭和四十八年九月二十日 印刷
昭和四十八年九月三十日 発行

編集人 浜田 疏司

発行人 朝居 正彦

発行所 毎日新聞社

〒100 東京都千代田区一ツ橋
〒550 大阪市北区堂島上
〒450 北九州市小倉区紺屋町
〒460 名古屋市中村区堀内町

印刷所 図書印刷

製本所 大口製本

死
の
塔——西城俳句紀行

目
次

序 章

深い睡り

シベリヤ

龍の三厄

雲中航

遠い響

ハバロフスクにて

重い河

アムール河

大黒屋光太夫のこと

草の絮

バイカル湖畔にて

一五

二五

三〇

三三

三七

三九

四三

四四

四七

四九

湖畔吟

玫瑰はまなすながし

青の層

アンガラ河のほとり

イルクーツク街上

鱈魚

乾
び

アルマ・アタ

雲の上

天山山脈

力尽きたる河

林檎の父

五二

五三

五七

五八

六

查

六七

七

七

△

스

食 難

八五

天山の詩

八六

雪 解 泉

八七

ニエダトロガ

八八

カザフ人のユルータにて

八九

見られなかった湖

九〇

刻 名

九一

タシケント

タシケントにて

九二

瓜

九三

馬 の 栗

九四

タシケント革命広場

九五

タシケントの裏町

二三四

顔かくす麵麁

二三〇

霾つゆふる

二三三

ナボイ劇場前

二三六

死者生者

二三九

青の一途いもづ

二四二

サマルカンド

サマルカンド第一歩

二四七

瑠璃のモスク

二五二

サマルカンドの夜

二五五

恋　　猫

二五八

朝のサマルカンド

二六〇

泥に踞^{きよ}し

チムールの墓

グル・エミール

チュパン・アタの丘の上で

六分儀

ビビ・ハヌイムの廢墟にて

崩 攘

サマルカンドのバザール

西瓜叩いて

イスラムの学堂^{メドッセ}にて

ひとりごと

シャール・イ・ジンダ

一三

一四

一五

一七

一七

一八

一八

一八

一九

一九

二〇

二五

イスラム群中

一九

棉花緑釉

二〇

小 壺

二〇六

アフラシアブの廢墟にて

二〇七

死者に声ありや

二〇六

俳句つくりのつぶやき

二一八

ブ ハ ラ

ブハラ第一歩

二二五

八方にらみ

二三二

ブハラの廢城

二三三

廢城にて

二四四

内城のほとり

二四七

死の塔	二七四
白き夕焼	二七三
レアビ・ハウズのほとり	二六六
菩薩蛮	二六七
隊商宿	二六四
火の寺	二六三
マゴキ・アツタリ	二六〇
茶を喫し	二五九
チヤシュマ・アユブの見える森	二五八
無釉の黄	二五五
イスマイル・サマニ	二五三
西日の門	二五七

こふのとろ

鶴と死の塔

二八一

ブハラを去る

二八三

棉の花

二八七

沙漠を貫く意志

二八八

地底の水

二九二

終章

帰路

二九五

眼下

三〇一

手帖

三〇三

帰宅

三〇六

挿 絵
装 幀
小 間
熊 谷
博 嘉
人 幸

死の塔

——西域俳句紀行

序

章

